

令和8(2026)年3月13日

校長だより Vol.14

The graduation ceremony was very moving. May happiness and hope always be with you.

卒業生みなさんに、「幸福」と「希望」がいつもそばにありますように…。

学年主任の滝浪先生を中心に、若き4人の担任とそれを支える学年部先生方のチームワークが良く、生徒にいつも親身に寄り添っていただきました。近い将来西高を懐かしく思ってもらいたい。西高生で良かったと思ってもらいたい。卒業生一人一人の『物語』が西高を振り返る時に、『みんなの物語』になってほしいと思います。

貨幣価値の変化、国内外の社会情勢、高校授業料の無償化、便利で快適な生活の恩恵と代償、等々…。

卒業生のみならず、私たち大人にとっても未来は明るくもあり、不透明なのかもしれません。それでも…、「希望」という紙風船を毎日打ち上げながら、その積み重ねで「幸福」を感じられる人生を歩んでほしい。三年間、様々な場面で関わっていただいたすべての先生方に感謝します。本当にありがとうございました。

「同じ星を見て歩いていきましょう!⑮」 ～ 清水西高校 校章の由来 ～

静岡県立清水西高等学校の校章は、菊と水(菊水)をモチーフとしており、その由来は、かつて学校があった場所に関係しています。1915年に、学校が現在の場所に移転した際、新校舎の落成を記念して制定されました。当時の教職員が、旧校地であった巴薬師の境内(つまだやくし/ばやくし)にあった湧水と老楠(くすのき)にちなんでデザインしました。「菊水」の紋様は、武将・楠木氏の家紋としても知られています。

清水西高校の校章は、創立時の校名「巴実科高等女学校」にちなんで、校章の中央に「巴」がデザインされており、その周囲を「波」と「梅の花」が取り囲む構成になっています。このデザインは、地域に根ざし、教育を通じて地域に貢献してきた学校の歴史と、未来へ向かって発展していく様を表しています。

校章の構成と意味 **巴(ともえ)**：中央に配置された巴のマークは、学校がかつて「巴実科高等女学校」として開校したことに由来します。**波**：巴を取り囲む波模様は、清水の海と、地域に根差して活動してきた学校の歴史を表しています。**梅の花**：さらにその外側にある梅の花は、教育を通じて地域に貢献してきた学校の姿と、生徒たちの成長・未来への発展を願う意味が込められています。

時代は絶えず動き変化していきますが、建学の精神や校章の由来に関わった多くの方々の思いは変わりません。現在、西高にいる私たちが目指す教育活動が、果たしてそうした思いやニーズに合致しているのか。『同じ星を見て…』は、遠視眼的な指標であると同時に、これまで本校が培ってきた様々な歴史を意識するものでもあります。

一年間、ありがとうございました。～今年度の終わりに、『ふりかえり』ましょう!!～

卒業式の直後からは、緊張する場面が続く入試業務となりました。先生方、お疲れさまでした。合格発表業務もありますので、まだまだ緊張は解けません、最後までよろしくお願いします。

副校長や教頭が一日体験入学や学校説明会、また、各中学校からオーダーに応じた学校説明会に奔走してください、西高の猛アピールをしてくださいました。しかし、静岡市の人口推計が示す若年層の流出や、私立高校授業料の実質無償化に伴う「公立離れ」という逆風。「地域に根ざした教育」や「生徒一人ひとりに寄り添う姿勢」を西高の売りとして頑張りましたが、残念ながら160人定員を大きく下回る結果となりました。清水西高校の正当な魅力を発信していくためにも、令和9年度入学者選抜に向けて、一年間をキチンと分析して『ふりかえり』しましょう。

とはいえ、先生方、西高のために一年間御尽力いただき、本当にありがとうございました。心と体のリフレッシュを十分にいただき、令和8年度が皆さんにとって「幸福」と「希望」に満ち溢れることを祈っています。

感謝
Thanks

